

会長あいさつ

2025-26年度 会長 宮崎 秀剛

スローガン：「基本に忠実 変化に対応」

このたび、福島西ロータリークラブの会長をお預かりするにあたり、「基本に忠実 変化に対応」というスローガンを掲げ、一年間のクラブ運営に取り組んでまいります。

ロータリーは、創設以来100年以上にわたり、「超我の奉仕」の精神のもとに、世界中で奉仕活動を展開してきました。私たちのクラブも、これまで多くの先輩方のご尽力により、地域社会に根ざした活動を積み重ねてまいりました。まずはその歴史と伝統に深く敬意を表し、基本理念に忠実に、ロータリーの価値を再確認する一年にしたいと考えております。

しかし一方で、私たちを取り巻く社会は急速に変化しています。少子高齢化、デジタル化、価値観の多様化など、地域社会が直面する課題も日々進化しており、従来の枠組みにとらわれずに活動を見直す必要があります。そのため、時代に即した柔軟な思考と行動力が今こそ求められています。

本年度は以下に重点を置いて活動を進めてまいります。

1. ロータリー精神の再認識と実践

例会を中心に、ロータリーの理念や歴史を再認識し、クラブ活動にどう生かすかを考える機会を増やします。

2. 基本への回帰と実践

クラブの設立精神と活動目的を再確認し、ロータリーの理念をしっかりと守りながら、会員の意識向上を図ります。具体的な行動を通してその内容を実現します。

3. 親睦と協調の強化

会員同士の絆を深め、世代や立場を超えてお互いを理解し合える、風通しの良いクラブを目指します。会員同士の絆をより深めるため、コミュニケーションの機会を増やし、連帯感を強化する活動を推進します。

4. 地域社会への貢献の再構築

従来の奉仕活動に加え、今の時代に必要とされる支援や連携の在り方を模索し、より実効性のある活動へとつなげます。地域のニーズに応える活動を展開し、地域住民や団体との協力を深めることで、クラブの社会的役割を強化します。

5. 青少年育成への取り組み

本年度も、福島市内の中学生を対象とした「少年野球大会」を主催いたします。今年で第28回を迎えるこの大会は、健全な心身の育成とスポーツマンシップの醸成を目的とした、当クラブ独自の長年にわたる取り組みです。地域の未来を担う若者たちにとって、努力やチームワークの大切さを学ぶ貴重な場となるよう、会員一同で心を込めて運営してまいります。

6. 新しい世代への橋渡し

若手会員の参加促進と育成、会員増強、次世代リーダーの発掘にも力を入れ、クラブの持続的な発展に寄与します。

7. 変化への柔軟な対応

時代の変化や会員の多様な要望に対応するため、活動の内容や形式を見直し、革新的で魅力的な取り組みを導入します。また、デジタルツールの活用や新しいコミュニケーション方法にも積極的に挑戦し、時代に即した運営を模索します。

これらの方針を基盤に、会員一人ひとりがロータリアンとしての誇りを持ち、クラブの発展に寄与することを目指します。

この一年間、会員の皆さまと共に「基本を大切にしながらも、変化を恐れず前に進む」クラブ運営を目指してまいります。どうか皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

I 重点目標

～会員全員が帰属意識を持つ～

DEI はロータリーの草創期からある「寛容の精神」「思いやりの心」

⇒ 「D 誰もが」「E 笑顔で」「I 居心地の良い」次代に続く活性クラブを目指す

- ① DEI（多様性・公平さ・開放性）への取り組み *My Rotary ラーニングセンターより引用
 - クラブ行事
 - ・例会や行事において、誰でも参加しやすいかどうか、改善の余地があるかどうかを検討する。
 - ・行事の会場を選定する際に、身体の不自由な人も利用できるかどうかを検討する。
 - ・行事の参加費用を抑える。
 - ・地域社会全体にイベントを告知する。
 - ・クラブの奉仕活動に地域住民も参加できるようにする。
 - クラブのリーダー職
 - ・役員理事を選出する際に地域社会やクラブ会員の構成を反映させる。
 - ・比較的新しい会員がリーダー職に就くことを奨励し、古参会員がサポートする。
 - ・多様な経歴や考え方を持つ会員を地区委員会へ推薦する。
 - 新会員勧誘時
 - ・入会候補者にとって意義あるクラブ体験を提供する。
 - クラブ運営の柔軟性
 - ・クラブ運営において柔軟性を取り入れ、幅広い会員が参加しやすいクラブにする。
 - ・会員の声に耳を傾け、全員が参加できるよう例会スケジュールや会費を調整する。
- ② クラブ活性化
 - クラブ体験を見直し、会員 1 人ひとりが歓迎され、お互いの幸福を追求するクラブ文化を創造する。
 - クラブ活性化への具体的プラン（3 カ年計画）を検討し、行動計画推進リーダー・戦略計画・DEI 委員会・会長エレクト等の協力を得て、新たな戦略計画を策定する。
- ③ 情報活用
 - ロータリー活動のプラットフォームとなっている My Rotary に登録し、世界中の仲間とつながり、世界中の仲間のアイデア、最新情報を積極的に取り入れ、ラーニングセンターを利用し、新しい学びに努める。
 - 地区ホームページ、地区 LINE なども積極的に活用し、ロータリーを楽しむ。そして、より多くのプログラム、行事、活動にバーチャルの要素を取り入れることで、より多くの人にロータリーを体験する機会を提供する。
- ④ 会員重視
 - ロータリーは奉仕を受ける人と会員の双方を支える組織である。会員の満足度が高まれば、会員の積極性を引き出し、より魅力的で、より楽しいものになる。更に、奉仕活動ばかりでなく、会員との関係においても、相手の心に寄り添うメンタルヘルスにも取り組む。
 - 私たちと関わる全ての人を歓迎し、公平でインクルーシブな環境を作る。
- ⑤ 会員増強
 - ロータリーを語り合い、楽しむ仲間を増やす。
 - 会員、特に入会歴の浅い会員の退会防止の工夫を具体的に考え、実践する。
- ⑥ ロータリー財団と米山記念奨学会への貢献
 - 「経済人として生きるのに必要なのは、聞く耳、涙する目、そして差しのべる手である」(アダム・スミスの言葉)
 - 我々ロータリアンは、与える文化の実践者である。ロータリー財団への寄付金は会員 1 人あたり 150 ドル、ポリオプラス寄付金は会員 1 人あたり 30 ドル、米山記念奨学会への寄付金は会員 1 人あたり年間 普通寄付 5,000 円 特別寄付 5,000 円以上を目指す。
- ⑦ その他
 - ORLI（ロータリーリーダーシップ研修会）への参加奨励
 - 地区 RYLA 研修会への参加奨励（青少年奉仕委員会の協力）
 - 会員研修および会員のロータリー活動の理解の深化（クラブ・ラーニングファシリテーターの協力）
 - クラブ優秀賞（旧ロータリー賞）へのチャレンジ・受賞

II 数値目標

- ① 会員純増 2 名
 - 入会候補者の例会への招聘
- ② ロータリー財団・米山記念奨学会への寄付
 - 年次基金への寄付 1 人 150 ドル
 - ポリオプラスへの寄付 1 人 30 ドル
 - ポリオプラス・ソサエティ 1 名
 - ベネファクター 1 名
 - 米山記念奨学会への寄付 普通寄付金 1 人 5,000 円 特別寄付金 1 人 5,000 円
 - 米山記念奨学生受け入れ 1 名 (2025-26 学年度 1 年間)
- ③ クラブ優秀賞 (旧ロータリー賞) 受賞に向けて (19 項目入力 14 項目以上の達成)
- ④ 奉仕プロジェクト (4 項目)
 - 公共イメージと認知度の向上: 福島駅西口観光案内版 (デジタルサイネージ) のデータ更新
 - 青少年健全育成活動: 第 28 回少年野球大会 (県営あづま球場) (11 月)
 - 麻薬撲滅啓発活動: 福島駅東口啓発活動・薬物乱用防止協議会への基金贈呈 (6 月)
 - 地区補助金活用事業: 第 28 回少年野球大会 (県営あづま球場) (11 月)
 - 環境活動: 福島 RC 主催 スポ GOMI 大会 in ふくしまへの参加 (9 月)
- ⑤ 夜間例会の企画 (10 項目) ~ 会員候補者・配偶者の参加、家族の親睦を促す~
 - 残暑見舞い家族夜間例会 (8 月)
 - 新蕎麦を食する会 (二本松 RC 合同) (10 月)
 - 少年野球大会慰労会 (二本松 RC 合同) (11 月)
 - クリスマス家族夜間例会 (12 月)
 - 新年会 (福島市内クラブ合同新年例会) (1 月)
 - 創立記念夜間例会 (1 月)
 - 夜間例会 (福島中央 RC 合同) (2 月)
 - 観桜夜間例会 (二本松 RC 合同) (4 月)
 - 夜間例会 (5 月)
 - 新旧役員歓送迎夜間例会 (6 月)
- ⑥ 職場訪問例会の開催 (年 2 回: 上期・下期各 1 回)
 - 佛母寺早朝例会 (8 月) * 下期検討中
- ⑦ 活発な部活動・同好会づくり~積極的な参加を促す~
 - ゴルフ部会: ゴルフコンペ (年 3 回程度)
 - 野球部会: 福島地区親睦野球大会、二本松 RC との交流試合・懇親会
 - 股旅会: 2 泊 3 日程度の旅行、大相撲観戦等の企画
- ⑧ その他
 - 事業活動の新聞掲載: 3 件、ロータリーの友・ガバナー月信への寄稿・掲載: 2 件
 - My Rotary 登録率 80%以上
 - RYLA 研修会の理解を深め、青少年の参加奨励: 1 名
 - ORLI (ロータリーリーダーシップ研修会) への参加奨励: 3 名
 - 次年度補助金活用事業の模索: 会長エレクト、副会長、R 財団・社会奉仕委員会との連携